

2025年3月期（FY2024）  
決算説明資料

2025年5月15日



本資料に記載されている計画については現在当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。

## 2025年3月期（FY2024）決算説明資料のサマリー

### 2025年3月期 決算概要

- **2025年3月期決算は、売上高1,263億円、EBITDA82億円、当期純利益▲15億円。**各利益は2024年3月期を大きく上回り、2025年2月公表業績予想対比では、概ね予想通り、当期純利益は若干上振れました
- 利益変動の要因は、基盤・成長事業の利益改善に加え、再編・撤退事業において前期計上した損失の反動増になります

### 資本増強の完了及び 事業再生期間の開始

- 当社は、不採算事業の再編・撤退、基盤・成長事業の収益成長を軸とした事業再生計画を2024年12月に公表し、**2025年3月に増資を完了しました**
- 亜鉛製錬事業の主要設備操業停止、希望退職者募集の完了など、**再編・撤退は計画通り進捗しています**
- 増資や金融機関との合意によって、**事業再生期間中の十分な資金繰りを確保しています**

### 2026年3月期 決算の見通し

- **2026年3月期決算は、売上高1,157億円、EBITDA71億円、当期純利益30億円。**鉛・銀製錬の増産や、2025年3月期計上の亜鉛製錬事業に係る減損損失の反動増により更なる業績向上を見込みます
- 上記は概ね本決算公表時点の資源価格・為替を想定レートとしています。製錬事業の収益は、資源価格・為替に対して相応に感応度があり、資源価格の低下や円高の進行は収益を圧迫するため、状況を注視してまいります

## 目次

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| 1. 2025年3月期決算概要       | P.3  |
| 2. 資本増強の完了及び事業再生期間の開始 | P.6  |
| 3. 2026年3月期決算の見通し     | P.16 |

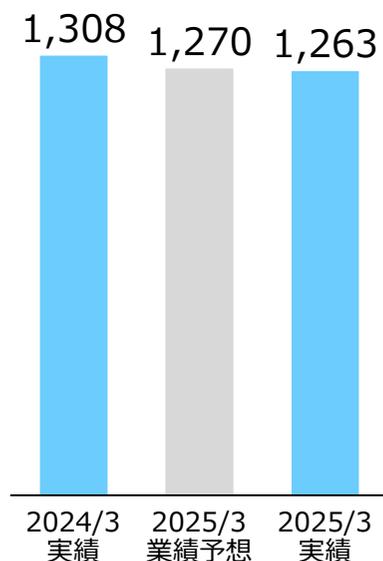
Appendix

## 2025年3月期決算の概要

売上高は2024年3月期と概ね同水準の中、事業再編・撤退等の影響により、各利益は2024年3月期を大きく上回りました。2025年2月公表の業績予想対比では、概ね予想通り、当期純利益は若干上振れました

(億円)

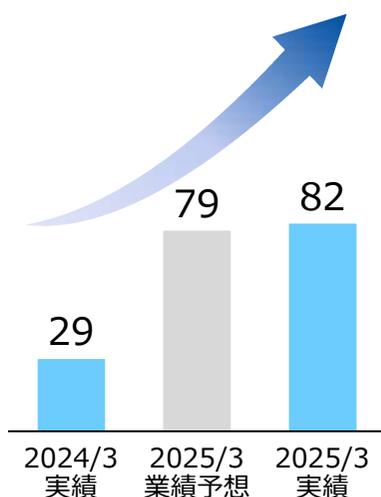
### 売上高



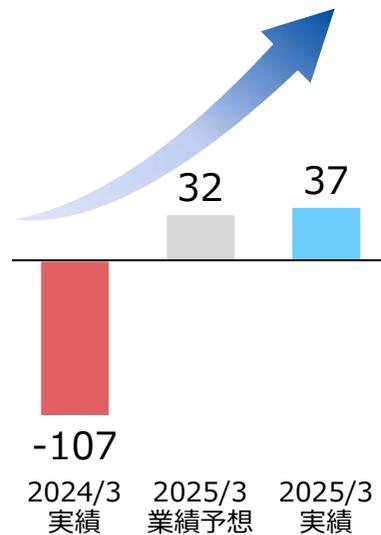
(前期比)

- 鉛・銀製錬事業の売上増加+28億円
- 資源事業（撤退）の売上減少▲49億円

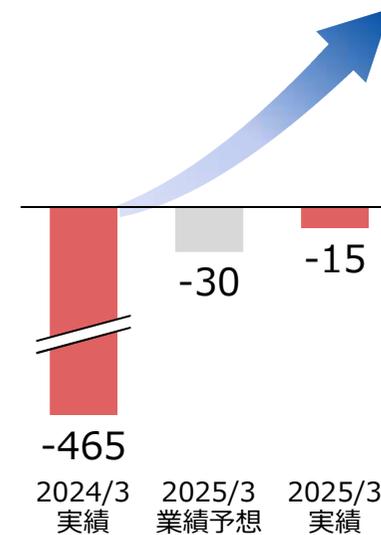
### EBITDA



### 経常利益



### 当期純利益

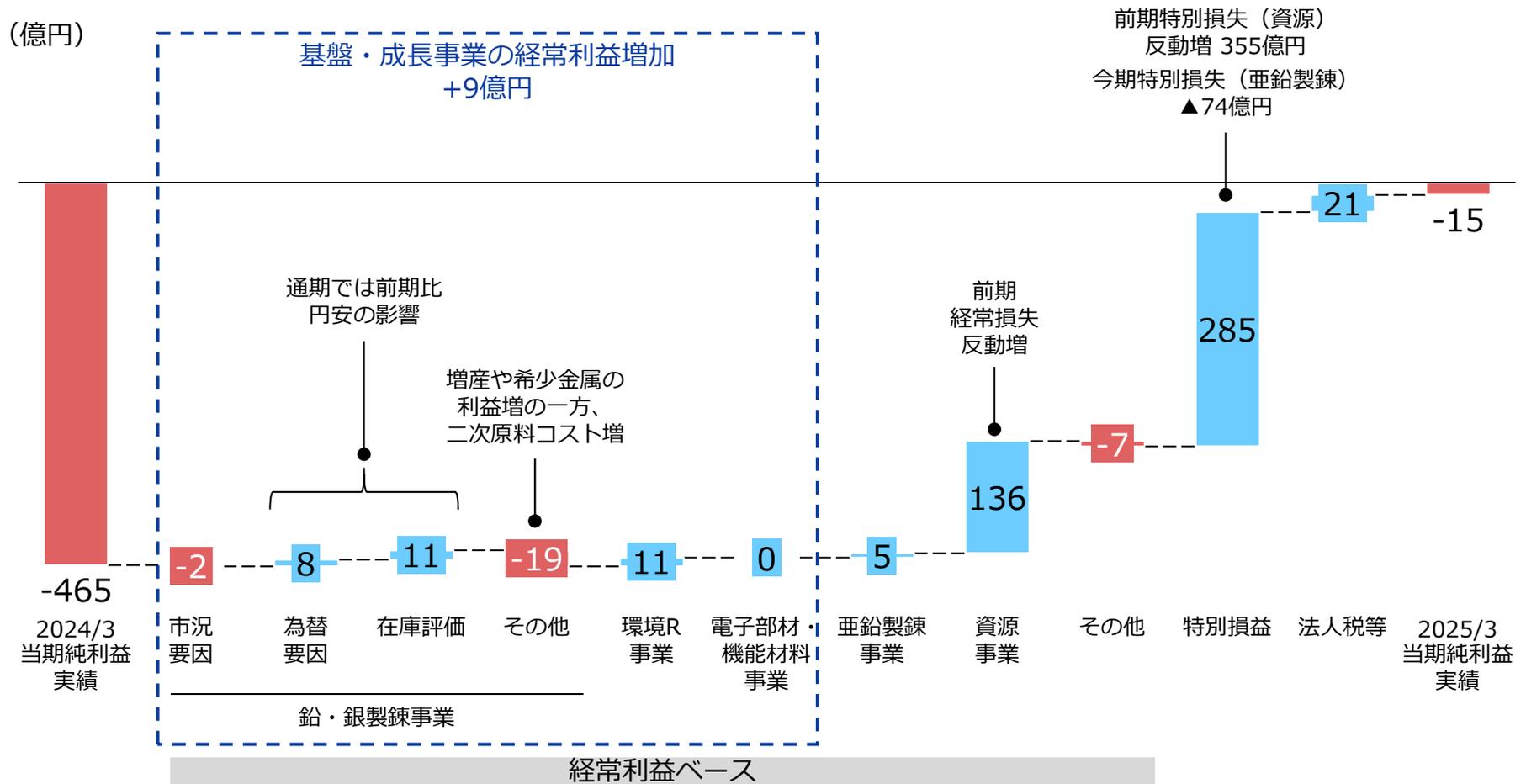


(前期比)

- 前期経常損失（資源）132億円、特別損失（資源）355億円の反動増

## 2024年3月期から2025年3月期の変動要因

基盤・成長事業は前期対比+9億円の経常利益増加となりました。再編・撤退事業は前期経常損失/特別損失の反動増で大きく利益改善となりました



## 目次

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| 1. 2025年3月期決算概要       | P.3  |
| 2. 資本増強の完了及び事業再生期間の開始 | P.6  |
| 3. 2026年3月期決算の見通し     | P.16 |

Appendix

## 事業再生に至る背景

事業体質の弱かった亜鉛製錬事業及び資源事業における損失を背景に財務体質が大きく悪化しました。2025年3月期中に資金調達及び業務提携を行い、事業再生を開始しました

### 業績及び財務体質の悪化

(2024年3月期実績)



構造的に高コストであり市況変動の影響を受け易い亜鉛製錬事業及び資源事業の収益が悪化し、損失を計上

継続企業の前提に関して重要な疑義を生じる状況に

### 資金調達及び業務提携

(支援企業一覧)



2024年12月アドバンテッジパートナーズがサービスを提供するファンド及び辰巳商会からの出資と阪和興業との業務提携を発表

3社の支援のもと事業再生に取り組む計画を開示

### 事業再生への取り組み

#### 基盤・成長事業

銀・鉛製錬事業  
環境リサイクル事業等

#### 再編・撤退事業

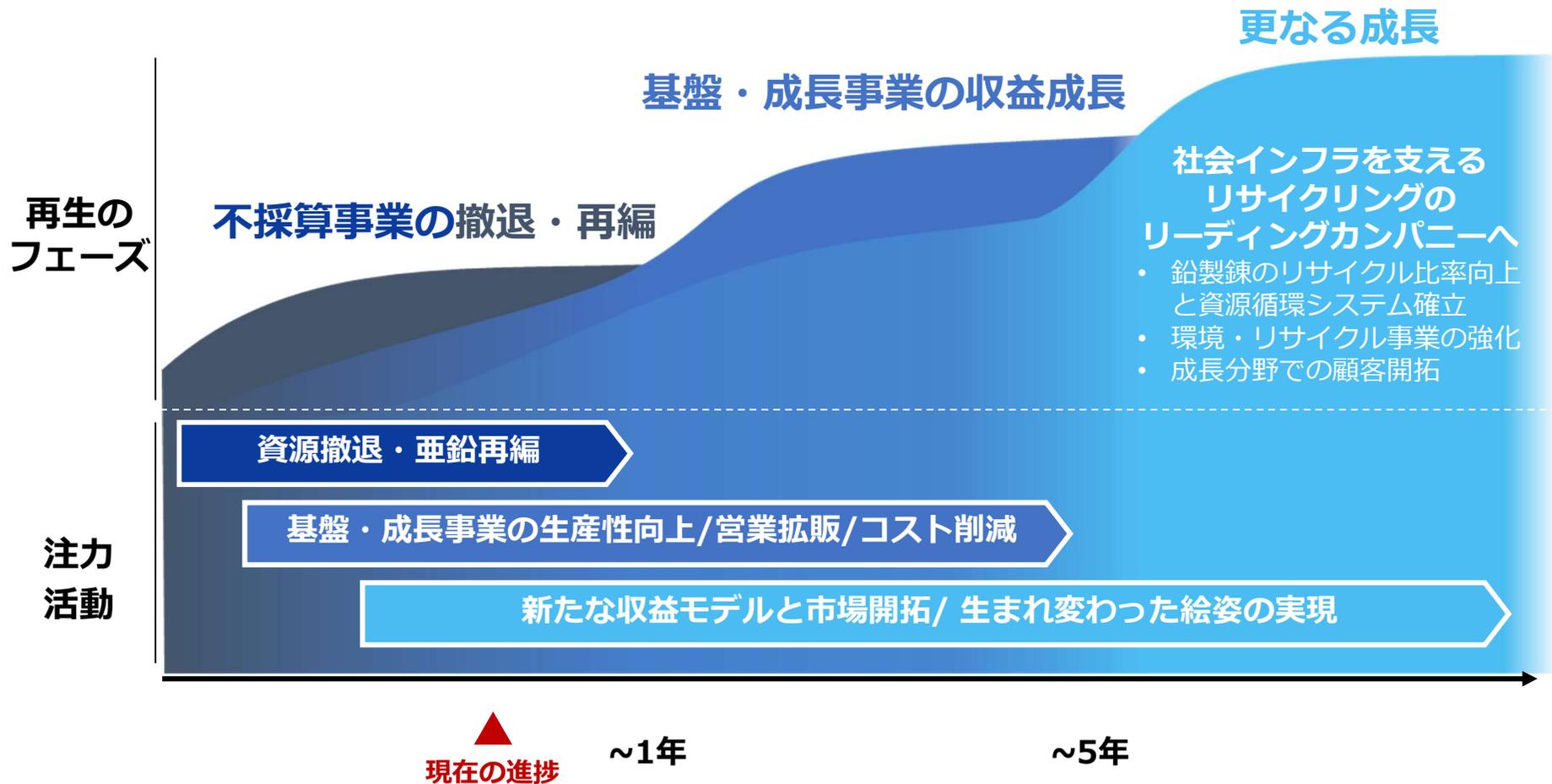
亜鉛製錬事業(再編)  
資源事業(撤退)等

2025年からの5年間を事業再生期間と位置づけ

不採算事業の撤退・再編と、基盤・成長事業の強化を通じ、経営基盤の再構築を行う

## 事業再生計画の概要

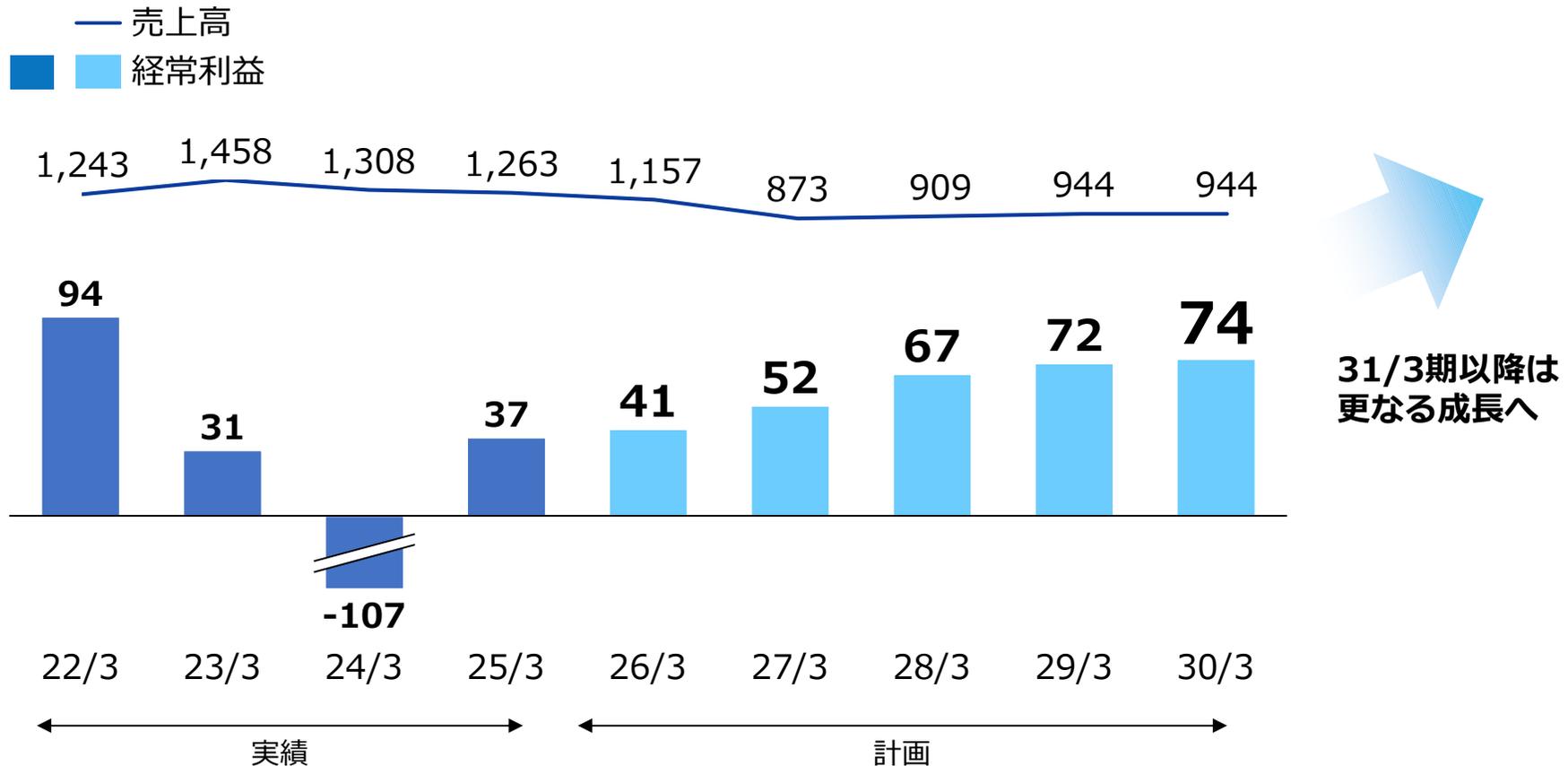
不採算事業の撤退・再編は1年を目途に完了予定であり、現在は計画通りに進捗しています。5年間で経営基盤の再構築を完了し、社会インフラを支えるリサイクルのリーディングカンパニーを目指します



## 事業再生計画における数値計画

事業再生計画完了時（2030年3月期）に経常利益74億円を目指すとともに2031年3月期以降継続して成長が可能な体制構築を目指してまいります

(億円)



## 事業再生計画における取り組み – 亜鉛製錬事業

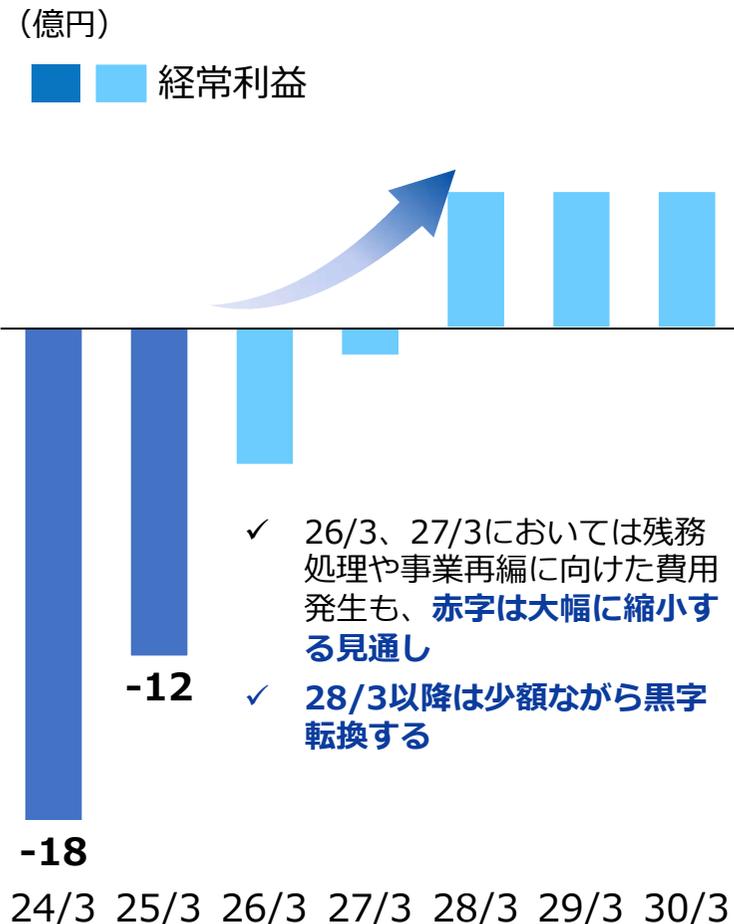
2025年3月期において設備の停止や希望退職者の募集を完了しました。2026年3月期中には既存の亜鉛製錬事業からの撤退を完了し、金属リサイクル事業へ再編いたします

### 2024年度

- ✓ 主要製錬設備の稼働の停止を完了 (2025年3月)
- ✓ 希望退職者の募集を行い、労使合意を完了 (2025年3月)

### 2025年度以降

- ✓ 2025年度上期中に製品出荷、2025年度中に稼働停止した製錬設備等の残務処理を完了予定
- ✓ 残務処理と同期をとり人員配置転換を実施
- ✓ 金属リサイクル事業としての再編に向けた設備の新設計画の立案



## 事業再生計画における取り組み – 資源事業

2025年3月期において豪州鉱山の売却等を完了しました。2026年3月期以降は一部費用が発生するものの、業績に対する影響は僅少になる見込みです

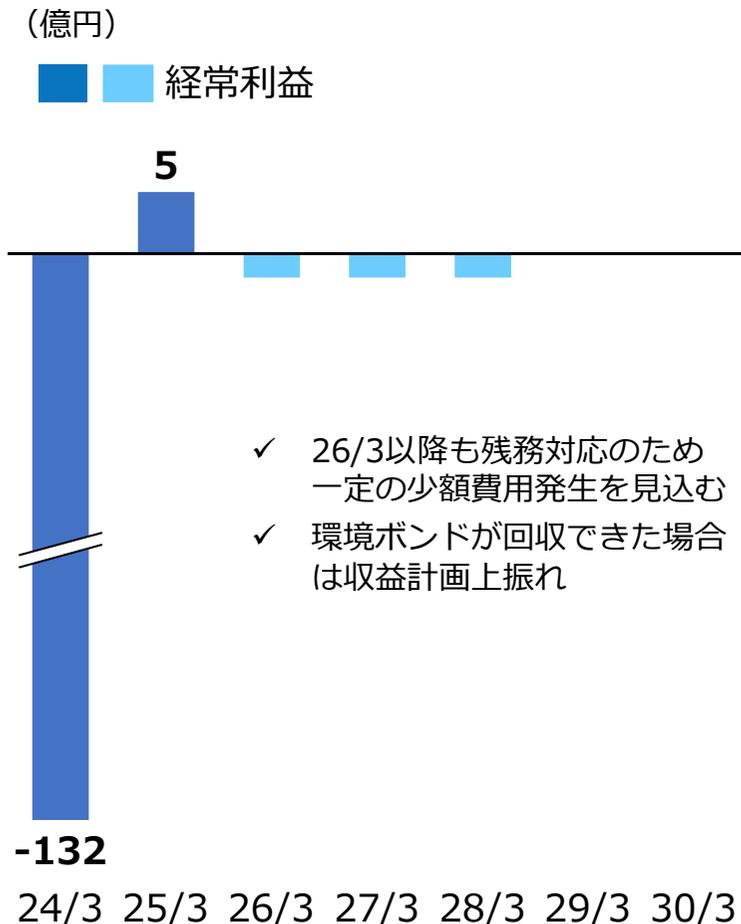
### 2024年度

- ✓ 保有していた3鉱山 (アブラ鉱山、ラスプ鉱山、エンデバー鉱山) の売却等を完了



### 2025年度以降

- ✓ エンデバー鉱山について、当局宛に差入れた環境ボンドの2026年7月までの回収に向けて取り組み
- ✓ アブラ鉱山について、2025年5月に開催された債権者会議において再建計画案が承認され、60日以内に当社保有株式を新株主へ譲渡する見込み

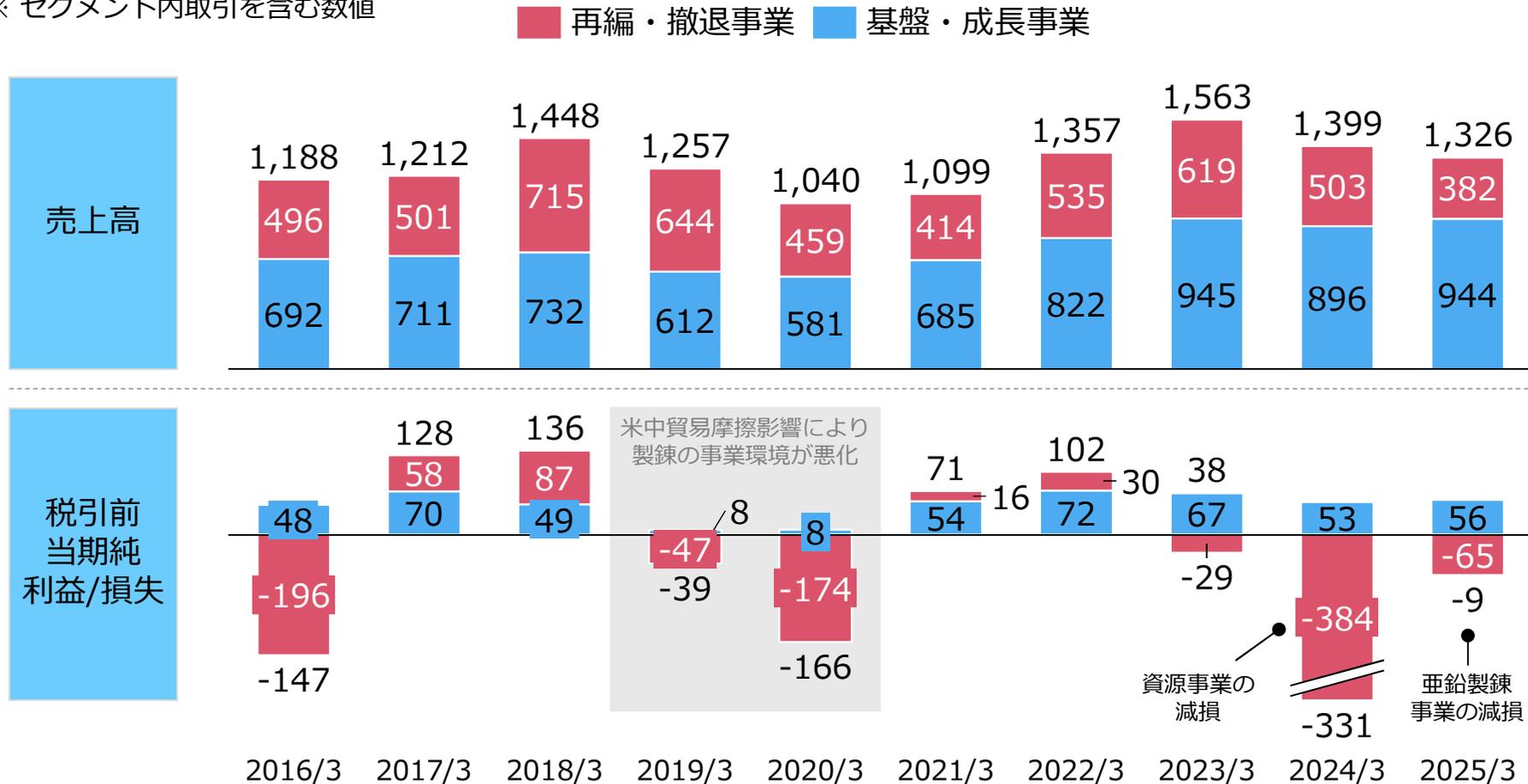


## 再編・撤退事業/基盤・成長事業別の過去業績

過去10年業績変動が大きく、損失を繰り返していた再編・撤退事業の撤退により、今後は安定的な収益基盤を持ち、成長余地を残す基盤・成長事業に集中してまいります

(億円)

※ セグメント内取引を含む数値



## 事業再生計画における取り組み（基盤・成長事業）

当社は鉛・銀製錬を軸に据え、増産およびリサイクル比率と収益性の向上を図ります。また、環境リサイクル事業の拡大等にも取り組みます

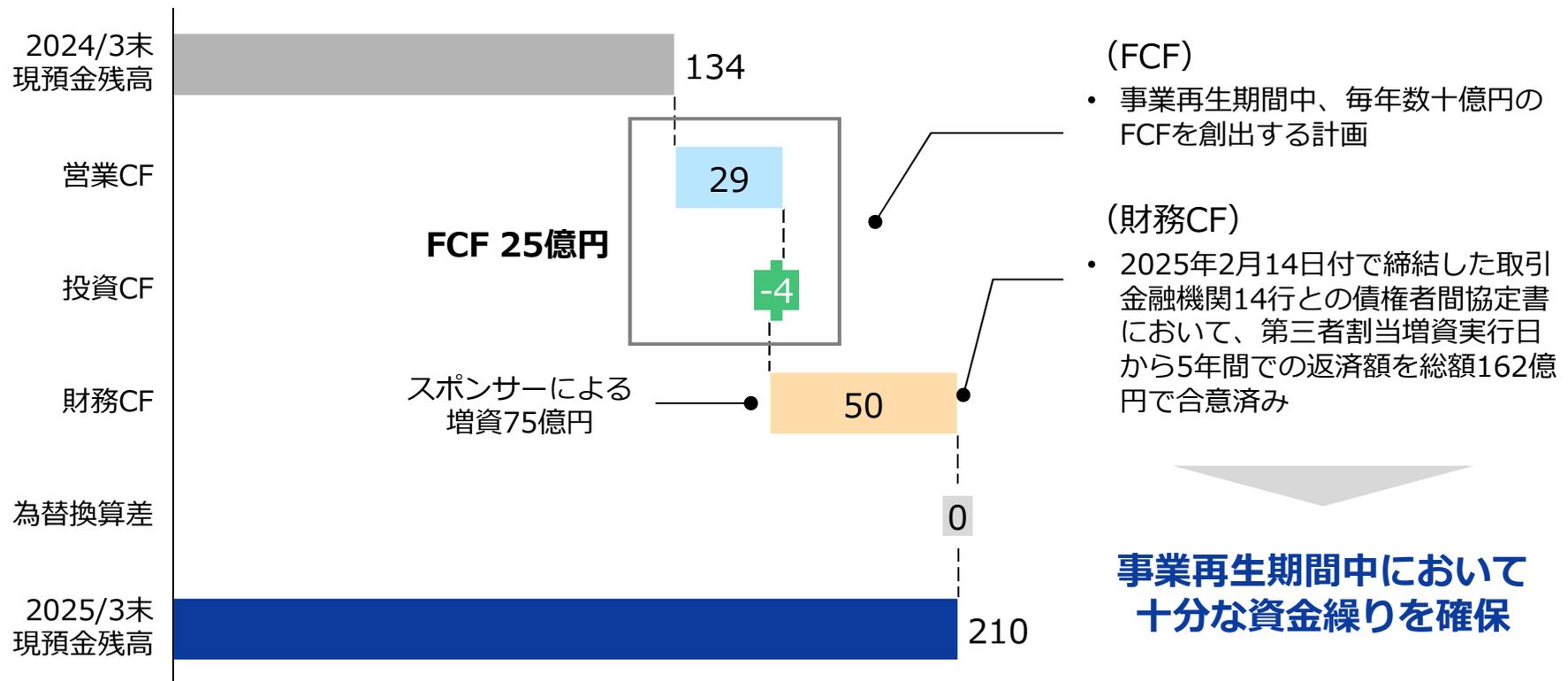
事業	事業の特徴	今後の取組み施策
 <b>鉛・銀 製錬</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>鉛蓄電池用途の堅牢な需要に加え、産業用途の成長も見込まれる鉛製錬の<b>国内シェアNo1（地金生産量40%）</b></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>鉛生産量を更に拡充し、トンあたり収益を向上</li><li>鉛鉱石及びリサイクル原料中に含まれる金・銀等の貴金属及びビスマス等の<b>希少金属の生産も拡充し販売を強化</b></li><li>鉛バッテリー需要家・鉛バッテリーメーカー・回収業者等との連携を強化した鉛リサイクル比率の引き上げ、<b>鉛リサイクルループの確立</b></li></ul>
 <b>環境 リサイクル</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>産業廃棄物を回収しタイヤに使われる<b>酸化亜鉛を独自製法で製造</b></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>原料となるダストの回収を強化することで<b>酸化亜鉛の生産を拡充</b></li><li>新規事業としてLIBリサイクルにも取り組み</li></ul>
 <b>電子部材 ・機能材料</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>センダスト系コイル</li><li>航空機に使用される当社世界シェアNo1（80%）の電解鉄</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>既存製品の販路・用途の拡大</li><li>機能材料（電解鉄）における新商品拡充</li></ul>

## CFの状況

FCF 25億円に加え、増資も完了し、2025年3期末の現預金残高は210億円となりました。基盤・成長事業からのCF創出により十分な資金繰りを確保してまいります

(億円)

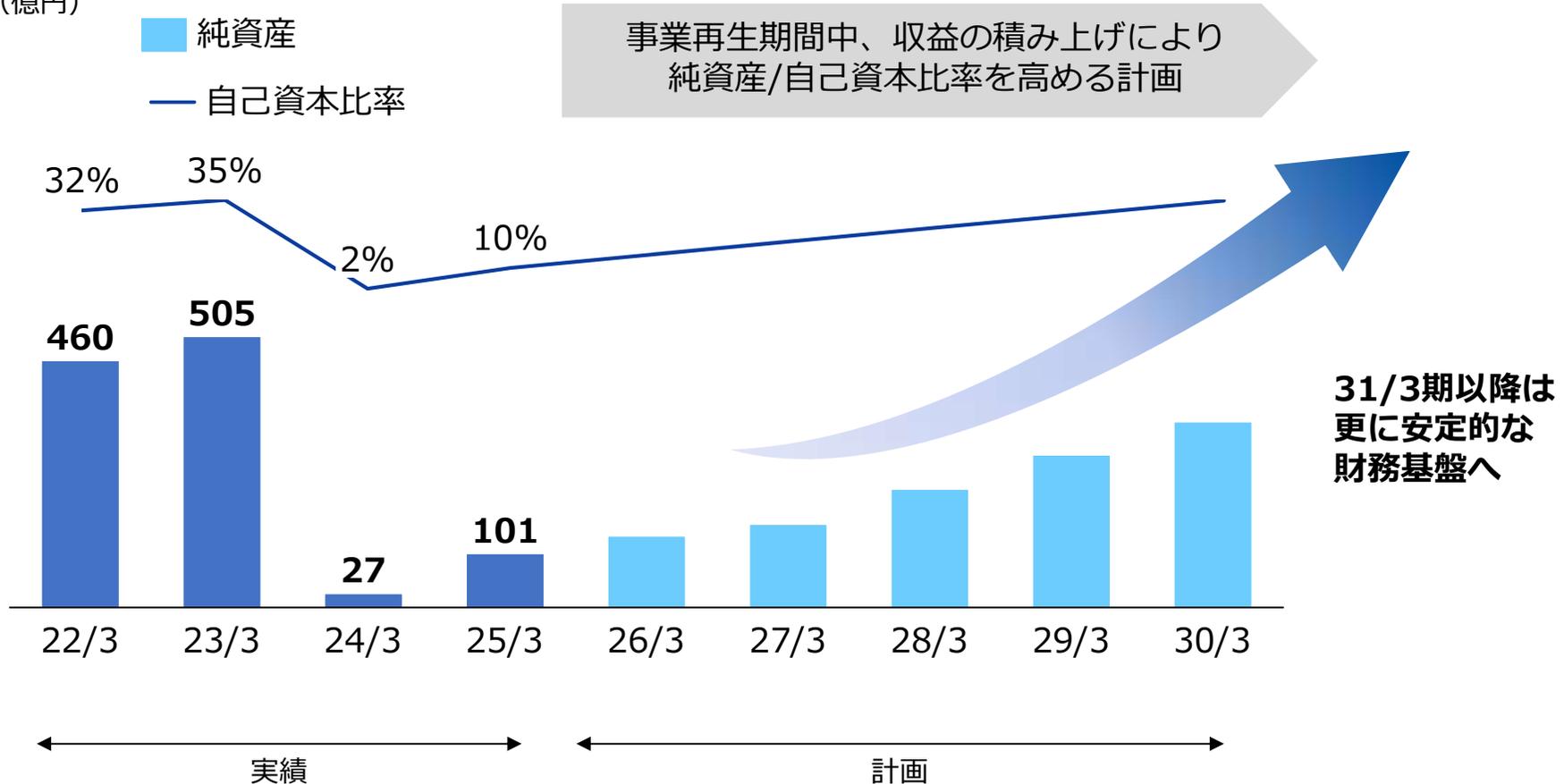
### 今後の見通し



## BSの状況

2024年3月期末には2%台となった自己資本比率は、増資により10%程度まで回復。事業再生期間中の収益の積み上げにより継続的な充実を見込みます。引き続き、金融取引正常化と復配を念頭に、安定的な財務基盤の再構築を目指します

(億円)



## 目次

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| 1. 2025年3月期決算概要       | P.3  |
| 2. 資本増強の完了及び事業再生期間の開始 | P.6  |
| 3. 2026年3月期決算の見通し     | P.16 |

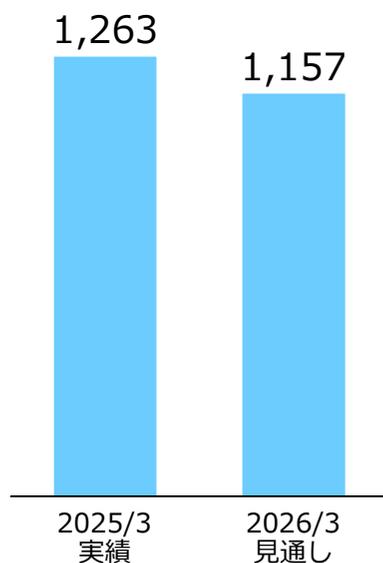
Appendix

## 2026年3月期決算の見通し

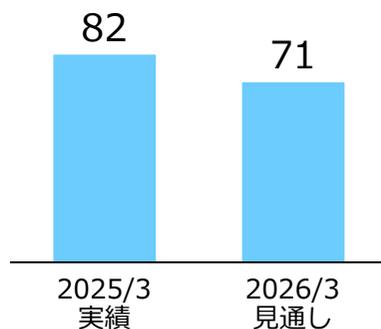
売上高は亜鉛製錬再編により若干の減少を見込みます。当期純利益は2025年3月期の減損の反動等により大きく増加する見通しです

(億円)

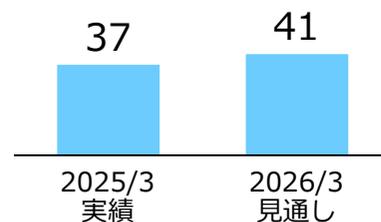
### 売上高



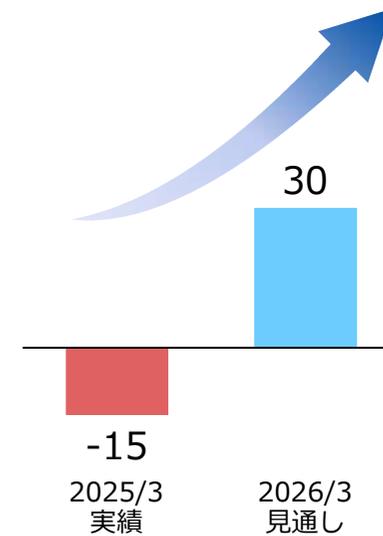
### EBITDA



### 経常利益



### 当期純利益



(実績比)

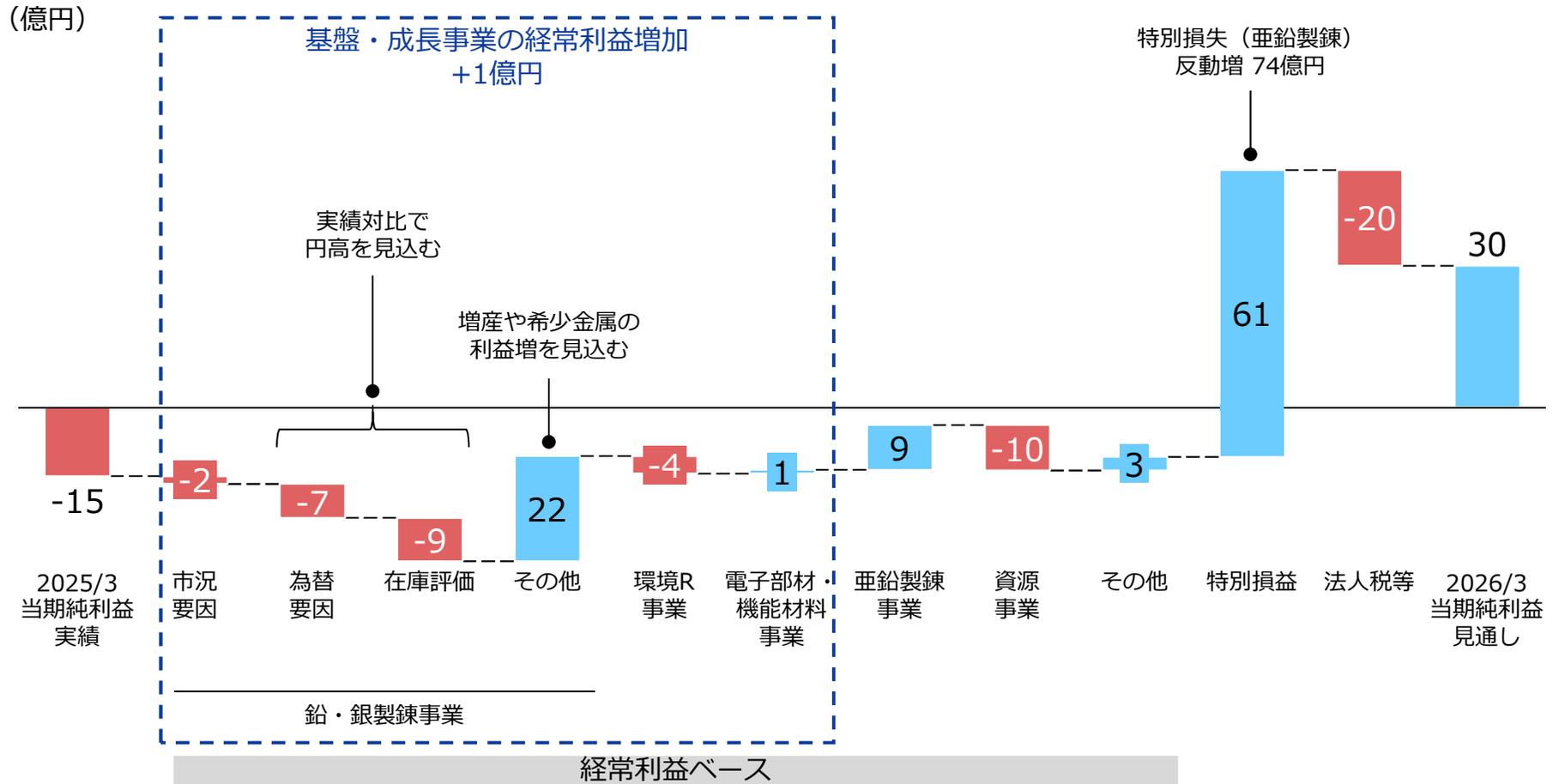
- 亜鉛製錬（再編）の売上減少▲243億円
- 鉛・銀製錬の売上増加+180億円

(実績比)

- 特別損失（亜鉛製錬）74億円の反動増

## 2025年3月期から2026年3月期(見通し)の変動要因

基盤・成長事業は、鉛・銀製錬事業において円高想定の方で、増産や希少金属の利益増を見込みます。特別損失（亜鉛製錬）の反動増により当期純利益は大きく改善する見込みです

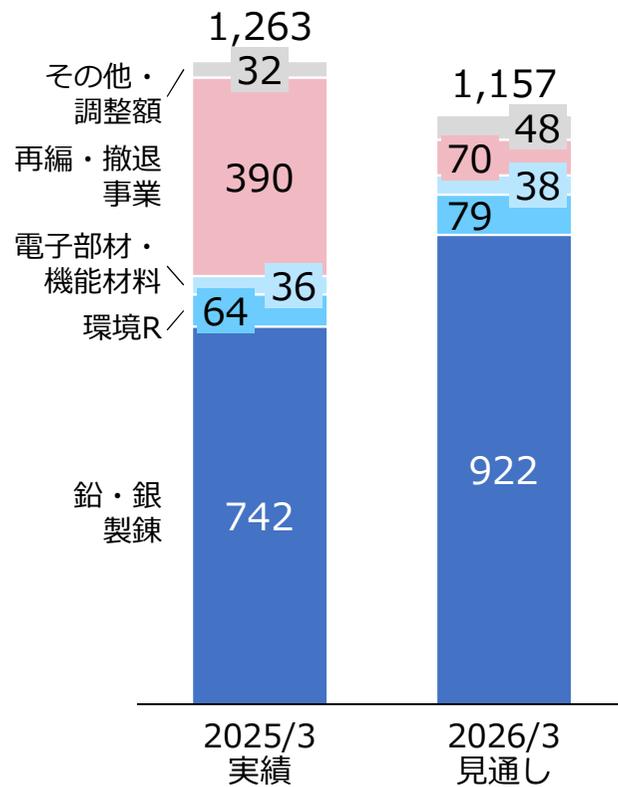


# セグメント別の損益の見通し

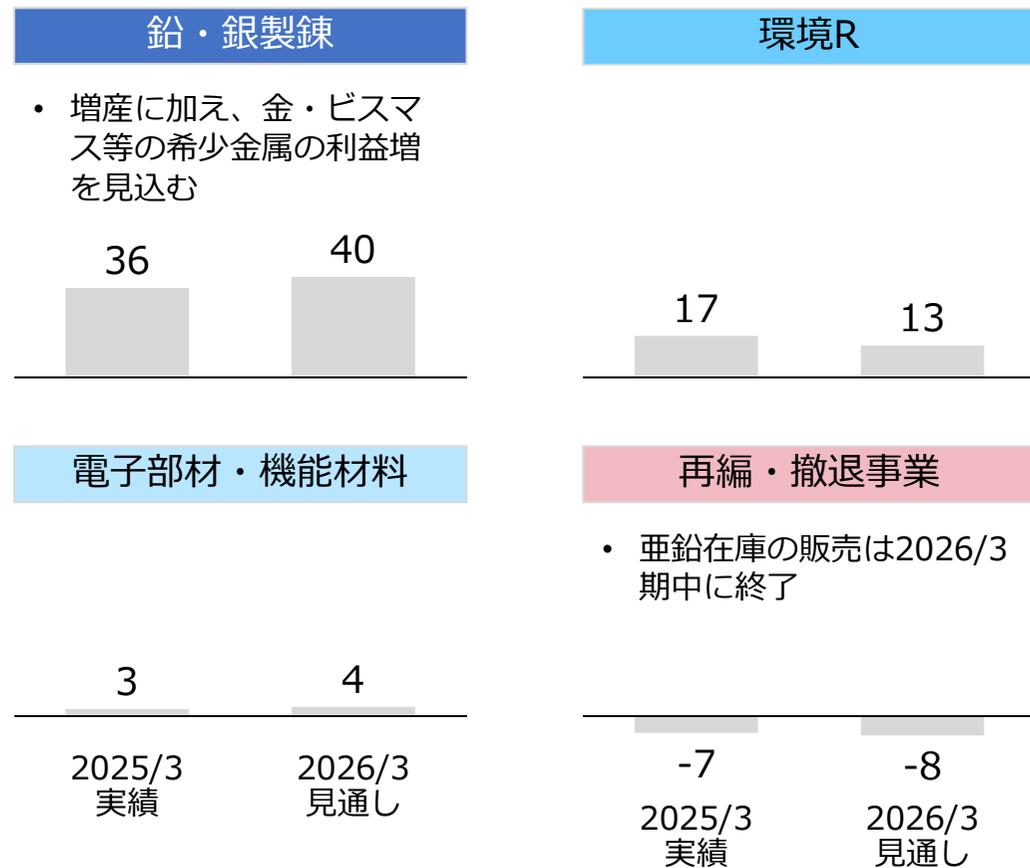
再編・撤退の影響により売上高は若干減少するものの、鉛・銀製錬事業を中心に基盤・成長事業の収益拡大を見込みます

(億円)

## 売上高の推移



## 経常利益の推移



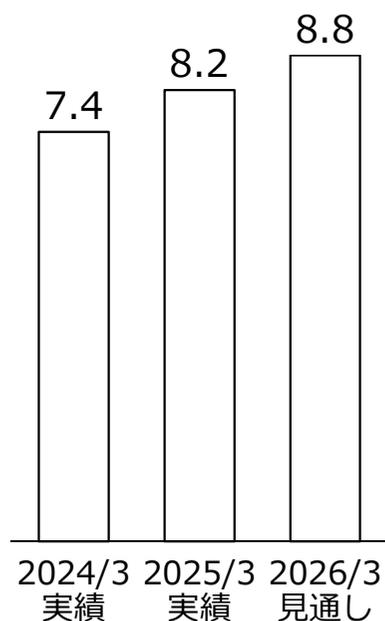
## (参考) 生産量、資源価格の推移：鉛

鉛生産量は増産により2026年3月に8.8万トンの見通しです。資源価格は足許相場の推移から概ね横ばいを想定レートとしました

### 生産量

(万トン)

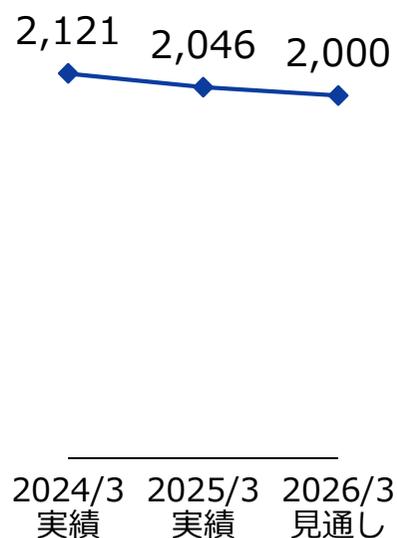
- 2024/3期の操業トラブルを解消し、増産の見通し



### 資源価格 (2024/3~2025/3 : 期中平均、2026/3 : 想定レート)

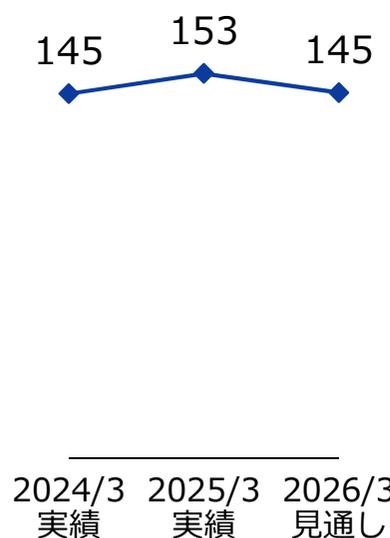
#### 鉛LME価格推移 (ドル建て)

(ドル/トン)



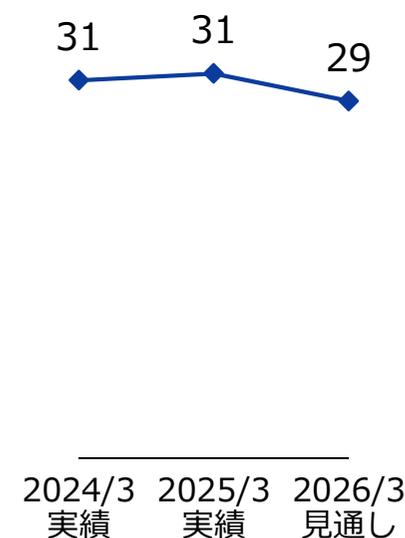
#### 為替推移

(円/ドル)



#### 鉛LME価格推移 (円建て)

(万円/トン)

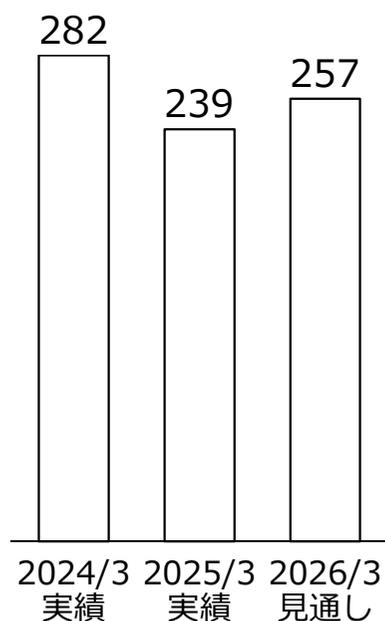


## (参考) 生産量、資源価格の推移：銀

銀生産量は2026年3期に257トンの見通しです。資源価格は足許相場の推移から33ドル/オンスを想定レートとしました

### 生産量

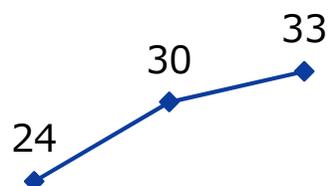
(トン)



### 資源価格 (2024/3~2025/3 : 期中平均、2026/3 : 想定レート)

銀LBMA価格推移  
(ドル建て)

(ドル/オンス)



2024/3 実績 2025/3 実績 2026/3 見通し

為替推移

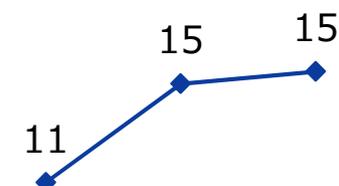
(円/ドル)



2024/3 実績 2025/3 実績 2026/3 見通し

銀LBMA価格推移  
(円建て)

(万円/kg)



2024/3 実績 2025/3 実績 2026/3 見通し

## 米国相互関税の業績影響について

米国トランプ政権による相互関税政策について、当社取引に対する直接的な影響は現時点では軽微と見ていますが、今後の需要や資源価格・為替などを通じた間接的な影響も含め、状況を注視してまいります

### 取引に対する直接的な影響

製錬・環境 R

- 当社の収益の太宗を占める製錬事業において、**米国への輸出取引はありません**
- 当社の販売する製品は、金属取引市場において売買可能なものが大部分であり、製造した分の販売が可能です
- ただし、自動車部品メーカー（鉛バッテリー・タイヤ）への国内販売があり自動車輸出台数の増減により影響を受ける可能性があります

その他

- 機能材料において、一部、米国向けの輸出売上があり、販売先は航空機部材メーカー等です。代替の効かない製品であることから現時点では取引に影響は出ておりません

### 資源価格・為替などを通じた間接的な影響

- **製錬事業の収益は、資源価格・為替に対して相応に感応度があります**
- 米国相互関税の発表後、資源価格・為替ともに変動しています。会社予想の前提となる資源価格・為替、およびそれらの感応度については開示の通りです
- 資源価格・為替が当社収益を圧迫する方向に動く場合は、販売価格への転嫁を検討いたします

## 資源価格及び為替の想定と感応度

市況・為替について、2025年3月期実績、2026年3月期見通しにおける想定及びそれらの収益に与える感応度は以下の通りです

	<u>2025/3 実績</u>	<u>2026/3 見通し</u>	<u>感応度</u>
<b>鉛相場</b>	<b>2,046</b> ドル/トン	<b>2,000</b> ドル/トン	100ドル/トン上昇の場合 経常利益 1.6億円増加
<b>銀相場</b>	<b>30</b> ドル/オンス	<b>33</b> ドル/オンス	1ドル/オンス上昇の場合 経常利益 0.5億円増加
<b>為替</b>	<b>153</b> 円/ドル	<b>145</b> 円/ドル	1円/ドル円安の場合 経常利益 0.8億円増加

## 目次

1. 2025年3月期決算概要 P.3
2. 資本増強の完了及び事業再生期間の開始 P.6
3. 2026年3月期決算の見通し P.16

Appendix

# Q4業績予想（2025年2月14日公表）とQ4実績（2025年5月15日公表）の比較

		業績予想 Q4見通し (2025年2月14日公表)	実績 Q4実績 (2025年5月15日公表)	差 (実額)	差 (%)
市況					
亜鉛	US\$/t	2,750	2,838	88	3%
鉛	US\$/t	1,900	1,970	70	4%
銀	US\$/onz	30.0	31.9	1.9	6%
円/米ドル		154.0	152.6	(1.4)	(1%)
米ドル/豪ドル		0.653	0.653	-	-
製錬セグメント主要製品生産量					
亜鉛製品	千t	15.9	15.1	(0.8)	(5%)
鉛製品	千t	14.6	14.3	(0.3)	(2%)
電気銀	t	57	60	3	4%
資源セグメントCBH社ラスブ鉱山（10-12月）					
粗鉱処理量	t	20	20	-	-
亜鉛精鉱生産量	千dmt	1.7	1.7	-	-
鉛精鉱生産量	千dmt	0.7	0.7	-	-
収支					
売上高	億円	297	290	(7)	
営業利益	億円	(6.8)	(2.5)	4.3	
EBITDA	億円	(1.4)	1.3	2.7	
経常利益	億円	(11.0)	(6.1)	4.9	
製錬	億円	(4.1)	(4.8)	(0.7)	
在庫評価損益	億円	(3.1)	(3.9)	(0.8)	
その他					
亜鉛	億円	(6.0)	(5.2)	0.8	
鉛	億円	5.0	4.3	(0.7)	
環境リサイクル	億円	2.1	4.8	2.7	
電子部材・機能材料	億円	(3.3)	0.5	3.8	
資源	億円	(2.6)	(3.0)	(0.4)	
アブラ鉱山持分法損益（40%相当）	億円	0.0	0.0	0.0	
その他	億円	(2.6)	(3.0)	(0.4)	
その他	億円	2.5	2.2	(0.3)	
調整額	億円	(5.5)	(5.7)	(0.2)	
当期純利益/損失	億円	(19.8)	(4.4)	15.4	

## 四半期推移

		Q1実績	Q2実績	Q3実績	Q4実績	2025/3通期
市況						
亜鉛	US\$/t	2,833	2,779	3,048	2,838	2,874
鉛	US\$/t	2,166	2,041	2,006	1,970	2,046
銀	US\$/onz	28.9	29.4	31.3	31.9	30.4
円/米ドル		155.9	149.4	152.4	152.6	152.6
米ドル/豪ドル		0.657	0.659	0.669	0.653	0.660
製錬セグメント主要製品生産量						
亜鉛製品	千t	18.9	11.8	11.3	15.1	57.2
鉛製品	千t	22.8	20.1	21.1	14.3	78.3
電気銀	t	53	64	63	60	239
資源セグメントCBH社ラスブ鉱山（1-12月）						
粗鉱処理量	t	105	109	106	20	339
亜鉛精鉱生産量	千dmt	7.9	9.0	8.5	1.7	27.1
鉛精鉱生産量	千dmt	3.9	3.6	3.0	0.7	11.2
収支						
売上高	億円	349	286	338	290	1,263
営業利益	億円	35.4	(1.6)	24.9	(2.5)	56.3
EBITDA	億円	42.3	5.8	32.4	1.3	81.7
経常利益	億円	33.1	(5.8)	15.6	(6.1)	36.9
製錬	億円	28.9	(16.5)	15.7	(4.8)	23.3
在庫評価損益	億円	9.6	(12.7)	14.7	(3.9)	7.7
その他						
亜鉛	億円	5.2	(6.2)	(6.1)	(5.2)	(12.3)
鉛	億円	14.1	2.4	7.1	4.3	27.9
環境リサイクル	億円	4.6	3.9	3.4	4.8	16.7
電子部材・機能材料	億円	1.8	1.5	1.0	0.5	4.8
資源	億円	(0.2)	7.0	0.8	(3.0)	4.6
アブラ鉱山持分法損益（40%相当）	億円	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	億円	(0.2)	7.0	0.8	(3.0)	4.6
その他	億円	0.7	0.3	1.5	2.2	4.7
調整額	億円	(2.7)	(1.9)	(6.9)	(5.7)	(17.2)
当期純利益/損失	億円	26.2	15.9	(52.3)	(4.4)	(14.6)

